

経営革新計画で新商品の販路開拓や設備投資を推進

課題

旨味成分の抽出力を活かして自社ブランド商品をつくりたい

昭和51年にローストレッグ、焼き鳥、大学芋などの食品の製造会社として創業した福田食品工業株式会社。昭和58年からは茶碗蒸しなどの冷凍食品も手がけ、大手食品卸売会社を通じて、全国のスーパーなどへ商品を提供、さらに海外（TPP参加国）にも進出している中堅企業である。冷凍食品、レトルト食品については一貫製造が可能で、また多種の食材についてうまみ成分を抽出し、素材を活かす出汁をつくる技術を有しており、取引先それぞれのPB食品に対応できる強みがある。そのため、OEMによる食品製造は順調に推移している。

もっとも、直接、消費者にアピールする自社ブランド商品が少なく、そのため企業としての知名度、認知度が低い。そこで企業ブランド力を高める自社製品を開発。全国でも珍しいキノコをペースト状にした新商品をつくったが、ターゲット、コンセプトを明確にできず、販路開拓が課題だった。

また、機械の老朽化で受注ロスが出ているケースがある半面、使われていない機械があり、稼働率を向上させたいと同社では考えていた。

支援

自社商品のシリーズ化に加え、新商品開発にも成功、

平成28年、同社はキノコの新商品の販路開拓について、南砺市商工会に相談した。

商工会では専門家に依頼してホームページの改良とともに、大学に委託して成分分析を受けるようアドバイスを行った。また、補助金活用の申し出があったので、同商工会主宰の「よろず支援拠点なんとサテライト」の活用を提案。さらに展示会、商談会への参加も促した。

一方、同年11月には、老朽化した機械を入れ替えていくために、補助金制度の活用について同社から相談があった。そこで、ものづくり補助金の申請を支援することになり、認可にプラスになるよう、経営革新計画、経営力向上計画の策定を提案し、計画書の作成を支援した。どちらの計画も認定されたものの、ものづくり補助金は不採択だった。

翌29年3月には、取引銀行から香港、大連での商談会参加の打診があり、富山県のチャレンジファンドを利用して参



主力商品の「大学いも」

加。さらに同年11月に取引先から同社に対して白エビを用いた混ぜご飯の引き合いについての相談があったため、商工会ではコンセプト、用量など細かな点に至るまでアドバイスを実施した。この食品についても、ものづくり補助金の申請を支援。今回は無事、採択につながっている。

こうした支援を経て、同社では経営課題を発見し、経営計画を策定する意識が高められた。現在ではキノコペーストはシリーズ化され、多様な「混ぜご飯の素」も商品化が実現。企業ブランドも高められている。

支援の経過

期間	支援内容
H28年4月	新商品展開について相談
12月	経営革新計画の策定支援
H29年1月	経営力向上計画の策定支援
4月	富山県チャレンジファンド事業申請支援
H30年4月	ものづくり補助金の申請支援

会社概要

会社名：福田食品工業株式会社
 所在地：富山県南砺市川上中891
 電話番号：0763-64-2021
 URL：www.fukudafoods.co.jp
 代表者名：福田哲博
 創業年：昭和51年
 従業員数：45名
 商工会名・担当者名：南砺市商工会・加賀見政和